

近畿



p.34 滋賀県

平塚 聡さん
テニス



p.35 滋賀県

細川 努さん
将棋



p.36 京都府

野口 博之さん
マラソン



p.37 大阪府

浜田 明さん
ソフトボール



p.38 奈良県

西廻 隆さん／
勝谷扶佐子さん／
文栄信也さん
ペタンク



p.39 京都市

黒川 幸子さん
ソフトテニス



p.40 京都市

西川 卓哉さん
ソフトバレーボール



p.41 大阪市

伊藤 明彦さん
ウォークラリー



p.42 堺市

東 好顕さん
ソフトテニス



p.43 堺市

正尺 福二さん
ソフトバレーボール



p.44 神戸市

森本 千代子さん
太極拳





テニス 「レイク近江 2023」(選手)

ひらつか さとし
平塚 聡さん 63歳
● 参加歴：1 回目

ONE TEAM で全国優勝！ 媛の国のおもてなしに感動

秋晴れの 10 月 29 日、全国の精鋭 68 チームが愛媛松山の地に集い、熱い戦いの舞台が幕を開けた。滋賀県選手団は 27 日、バス 3 台に分乗し、翌日の総合開会式に備えて愛媛県西条市に宿泊。西条市への道中は大雨・霰がバスの車窓を叩く荒天だったが、運よく到着間際にやみ、私たちテニスチームは到着するや否や予定通りホテル近くのコートに出向き初の合同練習で汗を流した。この練習で互いの力を知り「戦えるチーム」であることを皆が共有、結束力の高まりを感じた。そして練習後の夕食は明後日から始まる戦いの対策談議に花が咲いた。総合開会式は壮大なイベントで、媛の国の自然・観光・食・文化・スポーツ・芸能など趣向を凝らしたアトラクションに選手団の 1 人として参加できたことに感激。28 日、29 日の 2 日間は道後のホテルに宿泊し温泉で英気を養った。

大会は試合順が決まっています① 70 歳男子ダブルス→② 60 歳女子ダブルス→③ 60 歳男子ダブルスの順にコートに入り、2 勝したチームが勝利となる。

試合初日の予選リーグは 4 チームの総当たりで全勝し、1 位トーナメントに進むことができた。2 日目の 1 位トーナメントは 2 回戦京都市 2 対 1、準々決勝堺市 2 対 0、準決勝愛媛県 2 対 1、決勝神戸市は 2 対 0 という結果で優勝す

ることができた。

我がチームの女子ダブルスは、大会 2 日間で 7 戦全勝。負ければ敗退の 1 位トーナメント全 4 試合を合計 2 ゲームしか与えない圧倒的な強さを発揮し、頂点を手繰り寄せた大黒柱であった。60 歳男子ダブルスは 1 位トーナメントで 2 回の奇跡(といわれた)を起こし、次のステージに進めた。まずは 1 位トーナメント 2 回戦、強豪の対京都市を 4 対 0、準決勝の対愛媛県は 0 対 3 の土俵際からうっちゃり 4 対 3 で大逆転。70 歳男子ダブルスは 2 日間を通じ安定した強さを発揮。1 位トーナメントでは 60 歳男子ダブルスのミラクルな勝利を目にし奮起(?)、その直後の準々決勝、決勝を魂の戦いで勝利しチームを優勝に導いてくださった。

試合前に 6 人が円陣を組み「for the TEAM」と団結し一丸となれたのも勝因ではないかと感じている。団体戦での全国優勝をこのメンバーで成し遂げられ、坂の上の雲を掴むが如くこのうえない喜びだ。

私はかつて 30 歳前後の数年前を松山で暮らしており、愛媛県での開催を知り是が非でも参加したいと思い県予選に参加した。今回、集われた皆さんはこの地の素晴らしさを感じられたのではないのでしょうか。愛媛を「第二の故郷」と自負する私にとってそれは喜ばしいこと。心温まる「おもてなし」満載の生涯忘れ得ぬ素晴らしい大会を開催していただきありがとうございました。



優勝後、互いの健闘を讃え合う。(後列左端)



メンバー
60 女：桐畑紀子、山口利加
70 男：柏原龍二、佐竹秀一
60 男：美濃岡聡、平塚 聡

金メダルをかけて全員が笑顔。(左端)



将棋

「滋賀県」(選手代表)

ほそ かわ つとむ

細川 努さん 75歳

● 参加歴：7回目

対局中にかみしめた「勝つと思うな 思えば負けよ」

「ねんりんピック愛媛のえひめ2023」に7回目の出場をすることができました。

出発は10月27日、大津駅前に集合し、バス3台に分乗しました。無事西条市に着き、夕方は将棋の練習を個室でしました。28日は総合開会式やメインアトラクションを楽しみ、私は13時、代表者会議があるため愛南町に出発しました。昼食時間に四国名菓のタルトを家に送付しました。夕方18時より部門別の開始式があり、その後宿舎のある高知県宿毛市に宿泊しました。夕食後、三重県選手と交流対局をしました。

29日は団体戦です。1回戦はさいたま市に3対0で勝ち、2回戦は大分県に3対0で勝ち、3回戦は高知県に1対2で敗れました。大将の私が負けたので涙が出るほど悔しかったです。勝ち将棋を逃がし、集中力を欠いた自分が情けなく感じました。

30日は個人戦です。1回戦は北九州市代表の日朝さんに勝ち、2回戦は大阪市代表の小田さんに勝ち、3回戦は長野県代表の北原さんに勝ち、4回戦は静岡市代表の深澤さんに勝ち、4連勝で金メダルと賞状をいただきました。

私のブロックには元全国優勝の田尻さん、静岡県元名人の深澤さんがいて、きびしい試合でした。4局とも負け将棋でしたが逆転勝ちしました。また、大学の後輩で浜松市代表の永田さんに出会い、楽しいひとときでした。

私は22歳で滋賀県アマ名人、33歳で滋賀県王将になり、53年戦ってきました。自分のプライドと滋賀県の名誉のため、優勝してホッとしています。対局は平常心と1手1手の最善手を考えることが大切であると思います。美空ひばりの曲「柔」の歌詞に「勝つと思うな 思えば負けよ」とありますが、この言葉が対局中に思い出されました。

この大会で全国の強豪と対局できたことは自分にとっていい勉強になりました。

最後に愛南町婦人会からの仕出しや豚汁のおもてなし、地元高校生がつくったマーマレードのジャム、甘夏ジュースの販売、健康診断、皮つきミカンの試食、運営のボランティアなど、ご協力くださった愛南町役場の皆さんに感謝を申し上げます。2年後の岐阜大会に向かって棋力アップをしていきたいと思っています。



対局は常に真剣勝負。(奥)



逆転し、見事優勝を果たした。(右から4番目)



マラソン 5km 「京都府」(選手)

の ぐち ひろ ゆき
野口博之さん 67歳
● 参加歴：1 回目

健康づくりの蟻さんランナー体験記

令和5年1月末、京都SKYシニア大学の受講帰り、「ねりんピック」参加経験者の五十嵐さんから体験談を初めてうかがい、その1カ月後に情報誌『SKY 3月号』で公募を見つけました。今回の開催地が、友人が住む宇和島市のある愛媛県であることも知り、情報誌が自宅に届いた日にマラソン5kmに応募。私の走力から判断して、代表になれる確率はわずか2%と予想しましたが、5月末に代表決定通知が届き、天地がひっくり返るぐらいビックリしました。

私は平成5年に十二指腸を痛め、ピロリ菌が影響しているという診断で、運動不足も指摘され、ジョギングを始めました。それ以来、30年間で約50回も大会へ出場。陸上選手でない私はもっぱら「健康づくりランナー」であり、走るの蟻さんのように遅くて、積算距離が増えることだけを楽しみにしていました。

そんな私がねりんピックへの出場を機に、時短に挑戦することになったのです。2023年の夏は異常な暑さで走る気分になりませんでしたが、7月末からマラソン3km代表の関さんと、練習の走行距離やタイムをLINEで報告し合ってモチベーションを高めてきました。10月18日には地元の南丹市から、たった1人のために

激励会を開催していただき、身の引き締まる思いでした。

ついに本番がやってきました。10月27日は京都府選手団の結団式。小田垣団長の挨拶に、京都府代表選手としての自覚を強くし、懇親会では各種目の強者達と交流し刺激を受けました。28日の総合開会式では、20名の行進メンバーに選ばれ胸を張って堂々と歩きました。29日にマラソン交流大会開催地の松野町へ。10時ジャストに5kmのレースがスタート。コースは開始200m先から下り坂、平坦な松野町の商店街をくぐり抜け、街中を抜けた後に急な上り坂となり途中で折り返します。下見として、Googleストリートビューを何度も視聴して走路を研究してきました。マイペースの私は、男子70歳未満23位33分16秒で完走。走るエネルギー源になったのは、路肩からの声援に加え、前夜に宇和島の友人と15年ぶりに再会で励ましを受けたこと。そして、郷土料理（噂のじゃこ天・鯛めし・地酒「虎の尾」など）のおもてなしが背中を押してくれました。

健康づくりがきっかけのジョギングでしたが、大会に向けてワクワクする9カ月間。そして大会の中でたくさんの学びと体験ができ、大会

関係者の皆様に感謝します。さらなる健康増進と生きがいに目覚めた蟻さんランナーは、(2匹目の鯛ねらいとなる2025年の岐阜大会に向け)明日からジョギングに励みます。



完走した京都府代表の二人。(右)



総合開会式では20名の行進メンバーに選ばれた。(最後列左から2番目)



ソフトボール 「シニアドリームス」(選手)

はま だ あきら
浜田 明さん 64歳
● 参加歴：1 回目

「必ずまた出場しよう」。チームメイトと固く誓う

今回ソフトボール大阪府代表として、初めてねりんピックに参加させていただきました。また、大阪府選手団の旗手をさせていただき、体験談も書くことになりました。

愛媛県は、亡き両親の生まれ故郷であり、今も多くのご親戚が暮らしています。そんな愛媛県で開催される「ねりんピック」に参加できたことは、一生の思い出になりました。先ずは一緒に激戦の大阪府大会を勝ち抜き、本大会で準優勝に導いてくれたチームメイトに大感謝です。ありがとうございました。

前置きが長くなり申し訳ございませんが、ここからが体験談です。当日は、大会の規模の大きさ、ボランティア・役員・参加者の人数、そして開会式会場の駐車場のバスの台数に驚きました。ソフトボールの全国大会は2回参加しましたが比較にならないと思いました。

入場行進をさせていただき、いろいろなイベントも見せてもらい、まさに夢舞台。すばらし

い体験でした。

ソフトボール交流大会は今治市で開催されましたが、会場でゴミ拾いをしている中学生をはじめ、たくさんの方に「頑張ってください」と声を掛けていただき、嬉しかったです。ご当地グルメも無料で食べさせてもらい、大変ありがたく、とても美味しかったです。

今回3日間6試合を戦い、準優勝でしたが、とてもすばらしい体験でした。終わってからチームメイトと必ずまた参加したい、そしてそのために今後も頑張る努力しようと誓い合いました。

シニア世代にはいろいろな競技があり、それぞれの競技で全国大会があると思いますが、どうか皆様「ねりんピック」を目標の一番候補にあげてください。そして必ず参加してください。すばらしい体験が待っています。

最後になりますが、健康に気を付けてお互い頑張しましょう！



選手団整列場所で団旗を持って気分十分！



初出場の結果は見事準優勝！表彰式後に。(後列右端)

ペタンク 「ヤマト矢田山」

にし の たかし
西 廼 隆 さん 81 歳 ●参加歴: 1 回目 (監督兼選手)
かつ や ふ さ こ
勝谷扶佐子さん 85 歳 ●参加歴: 2 回目 (選手)
ぶん え い し ん や
文 栄 信 也さん 82 歳 ●参加歴: 1 回目 (選手)



負けて残念なるも「よく頑張った」と自分たちを褒めたい

2023 年 5 月 13 日「ならシニア元気フェスタ」はねりんピックの代表選考会も兼ねていたので、山下新知事の表彰状をいただき、私達 3 人のねりんピック出場が決まりました。

ねりんピックのチーム編成基準は、60 歳以上、女性 1 人以上、70 歳以上が 1 人以上ですが、何と 3 人とも 80 歳越え。合計年齢が 248 歳は堂々たる高齢チームです。

10 月 19 日に「ねりんピック奈良県選手結団式」があり、総勢 130 人程が愛媛県に行くことがわかり、気が引き締まる思いでした。

27 日、12 時発のバスで松山市に向かいました。無事松山市に到着し、奈良県選手団は全員同じホテルになりました。すこやか長寿センターのご配慮でそれぞれ個室を用意していただき、感謝しています。夕食後、もう何十年も行っていないという女性を無理矢理カラオケに誘い、結局 3 人で歌いまくり大いにリラックスしました。

28 日は、松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場において「総合開会式」がありました。その後、鬼北町にバスで移動し、監督者会議の後

で「ペタンク開始式」が行われ、高齢者特別表彰では 92 歳の選手もおられました。開始式の中で太鼓の演奏があり、鬼北町長もおられ、ランニング姿で熱演され、男らしいというか勇ましいというか、よかったです。

29 日は鬼北町グラウンドで 64 チームが 4 チーム 1 グループの 16 グループにわかれて予選リーグ各 3 試合を行い、各グループの 1 位と 2 位が決勝トーナメントに進出です。奈良県は僅差で 1 位通過できました。続いて 1 位と 2 位の各 16 チームが決勝 1 回戦に進み、奈良県は鹿児島県に 13 対 8 で勝ちベスト 16 に残りました。

30 日は決勝 2 回戦からで、対広島県は 13 対 6 で勝ち、3 回戦は強豪の岡山県に 12 対 10、時間切れで奈良県が勝利。次の準決勝では兵庫県に 11 点取られ、その後奈良が 7 点取るも時間切れで負けました。もう少し時間があればとの思いはありますが、3 位は大満足です。まさかここまで勝ち上がるとは思ってもいなかったもので、本当にビックリです。少し大げさですが大いに大いに自分達を褒めてあげたいです。

最後に、奈良県や愛媛県の関係者の方々に、大変お世話になりましたことと貴重な体験させていただいたことに、心から感謝しております。



総合開会式で、奈良県選手代表の行進。



鹿児島県との試合直後。勝ち負け抜き笑顔・笑顔。これぞねりんピック。奈良県メンバーは黄色のユニフォームを着用。



ソフトテニス 「京都市」(選手)

くろ かわ さち こ
黒川 幸子さん 63歳
● 参加歴：2回目

チームワークで団体戦のすばらしさを体験

「ねんりんピック 愛媛のえひめ2023」では、温かく手厚く対応くださった愛媛県大会関係者の皆様、大会当日まで京都市選手団を支援くださった京都市老人クラブ連合会の皆様に大変お世話になり感謝申し上げます。

京都市選手団として「いよいよ始まるぞ!」とワクワクした気持ちで、バスに乗り京都駅を出発しました。

その日の夜は、瀬戸内のすばらしい景色が眺められる倉敷市のホテルで、京都市選手団の決起集会と懇親会が行われました。

2日目は愛媛での総合開会式とソフトテニス開始式が行われました。

そして3日目がソフトテニス競技の始まりです。競技1日目は4チームのリーグ戦でリーグ内の順位が決まり、競技2日目は各順位別のトーナメントが行われました。私達京都市チームは支部予選終了後、京都府代表チームとの対抗戦や練習会、食事会などで親睦を深め、大会に臨みました。

競技1日目のリーグ戦では結果を出すことができず1勝2敗でリーグ3位になりました。結

果に対する残念な気持ちに加え、3位トーナメントの会場はいちばん遠い山の中と聞き、少し重い気持ちになっておりましたが、その夜、チームで食べて飲んで、「明日また、いちから頑張ろう!」と気持ちを切り替えることができました。

競技2日目の3位トーナメントでは最後まで試合をすることができ、優勝しました。

今回の大会では、チームの中でお互いに刺激を受けながら、団体戦のすばらしさを体験することができ、楽しい4日間でした。大会会場では、他県のチームや、大会関係者などたくさんの方々が応援してくださったり、声をかけてくださったりと、今まで参加した大会では味わったことのない、本当に温かい雰囲気でした。

京都市ソフトテニス連盟では、大会終了後にねんりんピック報告会として「京都市ソフトテニスねんりんピック同窓会」が開催されます。代々京都市の選手としてねんりんピックに出場された先輩方が多数参加くださり、ねんりんピックの歴史の重みを感じ、また今後の京都市からの派遣選手の力となる会です。今後は、このソフトテニス連盟の輪を大切に、連盟の一員として活動していきたいと思います。



今日から試合だ! チームメンバーと記念撮影。(前列右端)



京都市ソフトテニスねんりんピック同窓会を開催。(2列目右から2番目)



ソフトバレーボール 「MSV京都」(監督兼選手)

にし かわ たく や
西川 卓哉 さん 81歳
● 参加歴：9 回目

9回の出場と戦績は日頃の鍛錬のたまもの

私自身、ねんりんピックは第15回ふくしま大会(2002年)に初出場し、第17回群馬大会(2004年)、第19回しずおか大会(2006年)、第21回かごしま大会(2008年)、第23回いしかわ大会(2010年)、第26回こうち大会(2013年)、第28回やまぐち大会(2015年)、第30回あきた大会(2017年)と続き、今回の第35回えひめ大会(2023年)で9回目の出場となりました。えひめ大会はコロナ明けの大会であり、81歳になるまで元気に続けてきたバレーの総決算と位置付けての出場となりました。

私は60歳のときにこの大会に初出場し、20年間で9回も出場、4個の金メダル、3個の銀メダル、2位グループの優勝、3位グループの優勝を獲得。長い間ソフトバレーを愛好し、体力強化や維持、怪我をしないために鍛錬してきたおかげで、良い仲間や良いチームに恵まれ、このような栄光に与れたと思います。

仲間たちにいつも言っていることは、「しっ

かり準備体操を。そして基本に忠実に。チームワークを大切に。声を掛け合いお互いに励まし、ストレスも解消し、練習や試合に臨むことが、自分自身の選手生命を長くし、高齢になっても続けていける」ということです。今回のねんりんピックの試合もこのことが結果(1位グループ 優勝)として出たのではないかと思います。ますます元気で続けたいとも思っています。

それにしても、バス降車口から開会式会場への上り下りの長い坂道は、81歳の老体には厳しく、道後温泉の湯で毎日癒されていました。

久しぶりに参加したえひめ大会、試合会場は少し小さめでしたが、大勢の進行係さんやボランティアさんの熱心でスムーズで親切な対応、館内でのジュース、お茶、坊っちゃん団子などのサービスに感激しました。またお弁当も美味しかった。本当に歓迎してもらっているなと感じ、楽しく試合をさせていただきました。

最後に大会関係者の皆様、運営スタッフの皆様、素晴らしい大会にいただき、選手一同深く感謝申し上げます。また機会があればねんりんピックに参加させていただきたいと思います。



優勝メダルを首にかけ記念撮影。後列右から、本人、小林さん、古谷さん、前列右から船崎さん、伊佐さん、利根川さん。



チームみんなで優勝を祝って乾杯! (右手前から3番目)



ウォークラリー 「友遊8」(選手)

いとう あき ひこ
伊藤 明彦さん 65歳
● 参加歴：2 回目

ウォークラリーは遊び心。さらに心豊かに！

ウォークラリーを初めて意識したのは、1990年、京都府で開催されました全国レクリエーション大会（以下全レク）でした。ウォークラリーは「カーラリー」をヒントとしており、最初に考案・プログラム化された静岡県の渡邊佳洋先生から細部にわたりご教示いただいたことを皮切りに、全国の関係リーダーの方々と全レクを中心に情報交換など交流を深めています。

今年は、9月に徳島県で全レクが開催され、渡邊先生からねりんピックへ出場する私たちのチームへ熱いメッセージもいただき、感謝感激しています（渡邊先生は、2024年開催予定のとっとり大会を目指しておられます）。

ねりんピックにおいては、和歌山大会（2019年）で現地運営スタッフを体験しました。また、同大会後に小西基陽子代表からご案内とお誘いをいただき、新型コロナ禍で延期・中止となったぎふ大会からチームに参加させていただいております。

今回のえひめ大会では、5月の予選において、大阪市代表として5名選出いただきました（うち2名は初参加）。

また、派遣団体担当の方から小西代表を通して、大変光栄にも総合開会式旗

手、大阪市選手団結団式宣誓のお話を頂戴し、緊張の夏と秋でした。大阪市選手団119名の結団式では、前日に藤井聡太さんが八冠を達成されたおめでたい事象にあやかって、宣誓文に関連内容を加筆し、印象深い思いと気持ちの中、宣誓時も緊張からか発汗も体現しました。

総合開会式は天気にも恵まれましたが、会場外での待機がとても長く感じ、会場内の強い突風にも悩まされました。そのような状況でしたが、喜ばしいことに周囲の方々の激励、応援で無事に大役を終え、安堵しております。

大会2日目は場所を移し、瀬戸内海に浮かぶしまなみ海道沿いの上島町でウォークラリー交流大会に臨みました。30余年交流している他県知人や初めてお会いする参加者らと和気あいあいと5名全員一緒にコース上の課題やチャレンジポイントも各々楽しみつつ、安全無事にゴールできました。

今年は、やはり「アレ」を合言葉にしましたが、残念ながら前年同様入賞に滑りこめませんでした。切り替えて、次年度予選に向けて振り返り、留意点など意見交換を行っていきたいと思っています。

そして、他のメンバーと協働して原点である「健康づくり」「コミュニケーション」のより一層の促進を目指していきたいと感じています。結びに思い出深い「夢の時間」をいただきましたすべての大会関係者の方々に厚くお礼申し上げます。



新大阪駅に集合して、出発！（左端）



いよいよ交流大会がスタート。（後列左端）



ソフトテニス 「堺市にんとく」(選手)

あずま よし あき
東 好顕さん 78歳
● 参加歴：7 回目

笑顔いっぱいの愛媛

堺市選手団担当者からの電話に出ると、いきなりの団長依頼。大役なので躊躇しながらもお受けすると、なんと結団式での選手宣誓のオマケ付き。

出発日の10月28日は堺市役所前からバス3台で出発、明石海峡大橋を渡り、淡路島から四国に着く直前の鳴門海峡大橋付近で、渦潮ではなく急な暴風雨の洗礼を受け、大型バスが左右に揺れだす波乱の幕開けとなった前段階。

開会式当日は晴天で、競技場での楽しいイベントと愛媛の皆さんの笑顔でのお出迎えに緊張もほぐれリラックスし、お昼は美味しい弁当に舌鼓を打ちました。

総合開会式後は、試合会場と宿舎のある大洲市へ移動しました。大洲市は「伊予の小京都」と呼ばれる落ち着いた雰囲気、レトロな街並みが広がります。丘の上の美しい大洲城から肱川を眺めていると、突然、大きな旗を持った係員の方が現れて、「鉄橋上を観光列車が通るので旗振りイベントに協力してください」との依頼が。居合わせた10名ほどが参加するハプニングとな

りましたが、懸命に旗を振ったので少しはお役に立てたのかなと満足感に満たされました。

翌日の試合は広島市、熊本県、富山県と堺市の4チームのリーグ戦。風の影響もあって、まさかの1位通過。2日目は風の味方がなく、1回戦で相模原市に1-2で負けましたが、優秀賞のメダルをいただき、一同、大感激で終わりました。会場でいただいた名物の「いもたき」と愛媛の皆様の「愛顔」が最高の思い出となりました。ありがとうございました。

我々、堺市出場選手は堺ソフトテニス連盟に籍を置き、各種大会に積極的に参加するとともに、キャリアを生かしてスポーツ少年団、テニス教室、中学校のクラブ活動の外部コーチとして後進の指導にも当たっています。また、連盟主催の「シニア堺オープン」の全国大会も開催し、広く生涯スポーツとしてのソフトテニスの普及に力を注いでいます。

最後になりましたが、「ねんりんピック愛媛のえひめ2023」のお世話をいただいた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



急きょ、大洲城の旗振りイベントに参加。(右端)



美しい大洲城をバックにチームメイトと記念の1枚。(左から3番目)



ソフトバレーボール 「そや堺」(監督兼選手)

しょうじゃく ふく じ

正 尺 福 二 さん 71 歳

● 参加歴：10 回目

10 年連続の参加、今大会は旗手を担当

人生 100 年時代と言われる長寿社会の中で健康や生きがいを実感できる全国健康福祉祭（ねんりんピック）は、まさに長寿社会づくりを推進する国民的祭典で、60 歳以上を対象に開催されています。私はソフトバレーボール競技に参加させていただきました。競技種目によっては毎年参加できないと聞いています。私が所属する堺市においても連続して参加できない種目もあります。ソフトバレーボールは毎年予選会が開催される中、えひめ大会の出場権を得ました。

振り返ってみますと、私は 2012 年の宮城県大会から出場のお機会をいただき、早いもので 10 年連続して参加させていただきました。本当にうれしく思います。チームの皆さん、関係各位のご尽力によるものと感謝する次第です。加えて、このえひめ大会では選手団の旗手もさせていただきました。もちろん初めての体験であり、思い出の 1 ページを飾るものとなりました。

この 10 年を振り返って思い出するのは、チームとの交流です。試合前には待機時間がありますが、その時にチームの由来や練習は週にどれぐらいしているのかなど、いろいろな情報交換をして交流を深めています。貴重な体験となり、お互いに健闘を讃えあっていることが印象に残っています。

次に、競技種目により異なりますが、

大会終了後、チームメイトと
久万高原へ。



宿泊先から会場までが遠く、約 1 時間程度かかっていました。愛媛県大会では、松山市が担当で、宿泊から大会会場までは近く、歩いて行ける好立地で朝もゆっくりでき、試合が終了した時点で帰ることができて大変良かったと思います。他の競技はわかりませんが、宿泊先と大会会場まで近ければ近い方が、選手にとっては負担が軽くなります。

また、ソフトバレー競技では高齢者表彰があります。表彰を受ける方は 80 歳を超えています。80 歳を超えての出場、プレーができることは素晴らしいことで名誉なことと思います。私も、表彰を受けられるよう今後も頑張っていこうと思う次第です。

最後になりますが、今大会の成績は予選リーグ戦 1 勝 1 敗、順位別リーグ戦 1 勝 1 敗、2 勝 2 敗となりメダルを勝ち取ることができませんでした。しかし、全国の舞台で 2 勝できたことは本当にうれしく良き思い出となりました。関係各位の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



旗手を務めた堺市選手団の入場行進。(右端)



太極拳 「BE KOBE SEVEN」 (選手代表)

もりもと ちよこ
森本千代子さん 69歳
● 参加歴：1 回目

「心一つに」で日本一

10月29日に愛媛県西条市の西条市総合体育館で、「第35回全国健康福祉祭えひめ大会（ねんりんピック 愛媛のえひめ2023）太極拳交流大会」が開催されました。大会前日、すばらしい天候に恵まれた総合開会式を終えた我々は、会場となる西条市総合体育館に向かい、リハーサルを終えて翌日の本番に備えました。明けて本番当日、愛媛県太極拳連盟およびボランティアのスタッフの皆さまから熱烈な歓迎を受けつつ、私たち「BE KOBE SEVEN」は、神戸市代表チームとして少し緊張の中、現地入りし、我々のテーマ「心一つに シンクロする」を目標に試合に挑みました。

思えば、4月末のねんりんピック選手選考会「こうべ長寿祭」でメンバーがそろい、5月から毎週1回の練習が始まりました。監督の素晴らしい構成、「万華鏡」のような先の読めない演武展開、その想いを我々に伝え指導するコーチ、そして生身の体を使って表現する、この楽しさ。演武をスマホで撮り、確認、修正、確認、修正、その繰り返し。毎回の練習の中でシンクロすることの難しさを感じながらも少しずつ形ができ、また技術も向上している自分たちを感じ、練習にも力が入り、練習会場に行くのが楽しくてワ

クワクワすることを実感した6カ月でした。

さあ本番、コートの前には総審判長、副総審判長、審判長、そして審判員が周りをズラリと取り囲んでいます。練習の成果を出し切らなければ。「青の洞窟」の調べに乗って「心一つに」を唱えながら、「ああ、体幹が、足が落ちそう、堪えねば〜」。短いようで長かった緊張の4分間。得点プレートが上がった。何と9.20。今までにない高得点に「まさか」と思いながらも、涙が溢れてきます。最終得点は、9.08。我々は、全体の21番目。あとのチームの結果次第で優勝？ ハラハドキドキ胸は高鳴っている。そして全チームの演武は終わった。結果は何と優勝。2位とは、0.03の僅差だ。ヤッター！

初めてのねんりんピック出場で日本一になるなんて、我々の生涯忘れることのできない1ページ、一生の宝物です。この感動を9人で分かち合いました！

今後ますます高齢化する現実、改めて全国健康福祉祭（ねんりんピック）の意義を知ることができました。そして、今回ここに携わった方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。



呼吸と目線を合わせ、一糸乱れぬ動きで決まった瞬間。（中央）



「心一つに」を合言葉につかんだ優勝に感動。（左から5番目）